

忍者市を知る

NINJA CITY IGA
忍者市伊賀

—忍者月間—

平成 29 年 2 月 22 日に忍者市を宣言し、2 度目の忍者月間となります。

昨年は、忍者姿での美化運動や京都市嵐山での観光・忍者市 PR、市長による忍者出前授業などを開催しました。今年は、市長による忍者出前授業を引き続き開催するほか、伊賀鉄道と連携した忍者市 PR 事業を行います。

伊賀鉄道と連携した忍者市 PR 事業では、伊賀鉄道 上野市駅の駅舎の駅名表示に「忍者市駅」を追記し、駅構内にも「忍者市」を PR するご当地駅名標を整備します。2 月 22 日(金)の忍者の日には、駅名表示の除幕式を行い、記念列車を運行します。

上野図書館では、2 月 1 日(金)から 27 日(木)まで忍者をテーマとした特集コーナーを設置します。(図書館休館日を除く。)

また、忍びの里伊賀甲賀忍者協議会では、日本遺産「忍びの里 伊賀・甲賀」のストーリーを地域内外で共有し、その価値を広く発信するために、2 月 23 日(土)、忍の里・プララにて、日本遺産忍びの里



シンポジウムを開催します。

忍びの里伊賀甲賀忍者協議会のホームページ (<http://shinobinosato.com>) では、忍びの里伊賀・甲賀の魅力を発信していますので、ぜひご覧ください。

※シンポジウムについて詳しくは、14 ページをご覧ください。

【問い合わせ】

観光戦略課 ☎ 22-9670 FAX 22-9695

伊賀市の文化財 120

市指定天然記念物

ミツガシワ (下神戸)

伊賀地域は、古くは琵琶湖の底にあったため、そこに堆積した古琵琶湖層群と呼ばれる地層が形成されており、それによってできた湿地には希少な植物が多く生育しています。その中の一つにミツガシワがあります。

ミツガシワは、リンドウ科に属する植物ですが、他のリンドウ科の植物に比べると、^{※1}管束の状態が異なり、^{※2}葉も互生であるなど、かなり形態が違っています。また^{※3}発生学的にも異なる点があるので、ミツガシワ科として独立して取り扱っている場合もあります。

ミツガシワは、多年生の水生植物で、泥中に節が多く長い緑色の地下茎を伸ばし、その先から長い柄^えをもった葉を出しています。葉は、クローバーのように三ツ葉です。4 月下旬から 5 月上旬ごろには美しい白い花をつけます。

このミツガシワは少し日陰になると衰退し、アシ・ガマなどの背の高い植物が侵入してくると、やがて絶滅します。このことからミツガシワは陽当たりのよい場所を好んで生育する植物といえます。

そのほか、水温が低く、酸性で貧栄養であることが生育条件としてあ

げられており、当該自生地はかなりこれに近いといえます。

また、伊賀盆地の夏日の気温から推測して、ミツガシワは高温に対する耐性をもつと推察できます。

全国的にも自生しているのは稀で、県下唯一の自生地であることから、平成 4 年 3 月 24 日に市の天然記念物の指定を受けています。

※1 管束：植物が持つ内部組織の一つ

※2 互生：葉が互い違いに出る

※3 発生学：胚の発生を研究する学問



▲ミツガシワ

文化財課

☎ 22・9678

FAX 22・9667